

ドイツ土壌学会の50年

誌名	日本土壌肥料学雑誌 = Journal of the science of soil and manure, Japan
ISSN	00290610
著者	Scheffer, F
巻/号	50巻1号
掲載ページ	p. 84-90
発行年月	1979年2月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



ドイツ土壤学会の50年*

Fritz SCHEFFER**著・福士定雄***訳

I. 1926年から第二次世界大戦まで

ドイツ土壤学会は1926年2月24日、ベルリンで毎年行なわれる農業週間の第1回目のときに創立された。当時のドイツの土壤学者41名がFriedrich Wilhelm SCHUCHTの呼びかけに応じ、2年前ローマで(1924年5月19日)完全な形で設立された国際土壤学会になり、その支部として、一つの国の学会を創立した。しかしこの国際土壤学会の設立に先立って、1909年ブタペストおよび1910年ストックホルムで準備会議が開かれ、そこでドイツ屈指の土壤学者E. RAMANN, F. W. SCHUCHT, F. WAHNSCHAFFEは重要な役割を果たした。ドイツ側の努力が認められ、1922年プラハで開催された第一次世界大戦後最初の会議でE. RAMANNは名誉会長に推挙され、1924年ローマの国際土壤学会設立大会で承認された。F. WAHNSCHAFFE(1914年没)はすでに1910年以来、独、英、仏3カ国語による国際土壤学会報告("Mitteilungen der Internationalen Bodenkundlichen Gesellschaft")の発行を担当していたが、その後間もなく1914年にF. W. SCHUCHTがその後を継いだ。この雑誌は第一次世界大戦中も続けられ、戦争により引き裂かれた国際関係のきずなを戦後ふたたび結びつけ、強化するための、また(1922年プラハにおける)国際集会の急速な開催や(D. J. HISSINK, J. KOPECKY, F. W. SCHUCHTによる)国際的な協力を可能にするための有効な手段となった。

1926年9月20日デュッセルドルフでDBGの第1回大会が開かれた。会員数は90名に増加した。参加者には隣国オランダ、オーストリアおよびチェコスロヴァキアからの土壤学者も含まれていた。

国際土壤学会と同様、土壤学の分化の傾向はDBGにもみられ、次の部門がつくられた。

1. 土壤物理, 2. 土壤化学, 3. 土壤生物, 4. 土壤肥沃性, 5. 土壤地質および調査, 6. 土地改良

* この論文は1976年のDBG 50年祭に際し、DBG 理事会の委嘱により執筆され、DBGの全会員に配布されたものである。

** ドイツ連邦共和国ゲッティンゲン大学

*** 農業技術研究所化学部(東京都北区西ヶ原 2-1-7)
昭和53年10月20日受理

日本土壤肥科学雑誌 第50巻 第1号 p. 84~90 (1979)

「純粋土壤学と応用土壤学の共通的振興」という学会の特殊な目的を達成するために、最初から主部門はそれをさらに細分することにより補った。デュッセルドルフの大会では、土壤反応と緩衝能の問題、石灰需要量の決定法ならびに土壤生物の課題が論議の中心であった。

1928年ハンブルクの第2回大会では、生長因子の作用法則、有機物の定量、土壤分析に基づく土壤図の作製および第1回大会で提起された石灰飽和度と石灰需要量の問題が討議された。ピペット分析のための新しい分散用シリンダの使用をめぐる活発な論議は、会員数の増加(106名)とともに、土壤学的研究への関心が着実に高まっていることを示した。大学における農芸化学の研究分野の分割、つまり独立した教育と試験の学科として土壤学の研究を分離したのもこの時に当たっている。

1930年の大会はケーニヒスベルクで開催された。討議課題は土壤有機物のC/N比の意義、炭酸塩を含む土壤の緩衝能、置換酸性の化学、土壤構造におけるイオン和水の意義、さらに当時ケーニヒスベルクでS. Goyがとくに研究していた塩基捕捉空間の問題およびE. A. MITSCHERLICHの潤熱および鉢試験による養分測定に関する研究であった。

1932年ウィースバーデンの次の大会では、前回提起された問題が再びとり上げられた。すべての集会で方法論が重要な研究範囲となっていた。とくに国際土壤学会(ISSS)との協力で重要な問題となったのは、分析法を統一することと、概念がすべての国で統一的に用いられ、理解され得るように専門用語をつくることであった。

この若い地質的・生物学的科学の個々の研究方向は、いろいろな科学の代表的学者が受持っていたが、それがどの方向から来ようとも、自然体である土壤に課せられた課題を総括的に見ながら、利用の方法に従って解決できるように、たがいに密接な関係を育てようと努力していたことは当然である。この考えを推進するために、一連の研究會がつくられ、それは〔たとえば 1) 組織的な土壤調査、2) 試験場の組織との協力、統一的な分析法の検討および 3) 養分および石灰需要量の測定法の検討〕明らかな成果をもたらした。とくにISSSの課題との密接な協力を注目せねばならない。

1934年10月16日の法律に従って、ドイツの土壤査定歴史において始めて統一的に実施された土壤評価(Bodenschätzung)は土壤学に大きな名声をもたらした。そしてそれと同時に肥沃度値に基づく土壤査定の大規模な実践のなかで、土壤型学(Bodentypenlehre)の意義が明らかに示された。これに関連して、土壤評価の結果と方法に基づいてつくり上げられた各種の土壤図、たとえばニーダザクセン地図帳、バイエルン東部国境の地図、F. HERZOGの大ドイツ土壤図などの刊行も忘れぬようにしたい。

大会や研究部会の報告ばかりでなく、同時に比較的若い科学に対し多数の科学者が大きな関心を示したことから知られる、土壤学のこの喜ばしい進歩とともに、この当ไหร่回も版を重ねた多くの教科書、ハンドブックの名も挙げておかなければならない。ここに抜き出したのはそのうちほんの一部に過ぎない。

E. RAMANN, "Bodenkunde," 1905; P. EHRENBURG, "Die Bodenkolloide," 1922; E. A. MITSCHERLICH, "Bodenkunde für Land- u. Forstwirte," 1905; Adolf MAYER, "Bodenkunde," 1914; H. STREMMER, "Grundzüge der praktischen Bodenkunde," 1926; P. VAGELER "Kationen und Wasserhaushalt des Mineralbodens," 1930; P. VAGELER, "Grundriß der tropischen und subtropischen Bodenkunde," 1930; G. WIEGNER "Boden und Bodenbildung," 1918; H. STREMMER, "Bodenkarte von Europa," 1938, "Bodenkarte des Deutschen Reiches," 1936; H. KAPPEN, "Die Bodenazidität," 1931; E. BLANCK und E. HASELHOFF, "Bodenlehre im Lehrbuch der Agrikulturchemie," 1928; F. W. SCHUCHT, "Grundzüge der Bodenkunde," 1930 und "Die Muschelkalkböden Mitteldeutschlands," 1935; W. TASCHENMACHER, "Grundriß einer deutschen Feldbodenkunde," 1937, E. BLANCK, mit zahlreichen Mitarbeitern "Handbuch der Bodenlehre," Springer Berlin in 10 Bänden 1929~1932, 1. Erg. Band 1939.

たとえば土壤生成の分野のように、少なからぬ研究分野では外国の研究が重要な役割を演じ、当時は追いつくのが困難であったが、ドイツの科学者もとくに土壤化学、土壤中で行われるエネルギーと物質の過程の研究に対して周知の貢献をすることができたといつてよからう。当時業績の著しい学者のうちとくに名を挙げるに値するのは O. GANSSSEN (最後はベルリン地質調査所, 1940年没) と G. WIEGNER (最初ゲッティンゲン, のちにチューリヒ, 1936年没) である。

30年代に始まった塩基交換の担体としての「粘土物質」のレントゲン撮影法による研究はひとつの新しい、今日の見地からしても非常にみどり豊かな、鉱物学的土壤研究の時代の幕を開くものであった。それは土壤動態または土壤代謝の分野における戦後の数え切れぬほどの研究において、われわれの知識を深めた。それゆえにわ

れわれはとくに C. W. CORRENS 一派に触れておかなければならない。

土壤学の知識をとくに豊かにするための媒体となったのは、大会に続いて行なわれた見学旅行、ことに ISSS のそれであった。1930年ロシアを横断して黒海に至る大規模な見学旅行は、様々な土壤生成因子の作用を大きな空間的広がりの中で実地説明するのにとくに適しており、F. W. SCHUCHT の下に 1940年のドイツに計画されていた大会と見学旅行にとっても模範的なものとなるはずであった。

1935年には機構改革が行なわれ DBG の分科は8部門に分けられた。F. W. SCHUCHT は DBG の会長であり同時に ISSS への連絡員(部門長)でもあった。

執行部 会長: SCHUCHT (ベルリン), 第1副会長: MITSCHERLICH (ケーニヒスベルク), 第2副会長: TRÉNEL (ベルリン), 事務局長: GIESECKE (ベルリン)

第I部門 地質土壤学, 部門長: HÄRTEL (ライプツヒ), 土壤侵蝕研究サークル: KURON (ベルリン), 第II部門 農業土壤学, 部門長: GIESECKE (ベルリン), a) 鉱質土壤研究サークル: GIESECKE, b) 泥炭土壤研究サークル: FRECKMANN, 第III部門 森林土壤学, 部門長: KRAUSS (ミュンヘン), 第IV部門 園芸土壤学, 部門長: VOGEL (ヴァイエンシュテファン), 第V部門 土地改良技術土壤学, 部門長: FRECKMANN (ベルリン), 第VI部門 土壤分析法, 部門長: ALTEN (ベルリン), a) 物理分析研究サークル: KÖTTGEN, b) 化学分析研究サークル: ALTEN (ベルリン), c) 生物分析研究サークル: SCHEFFER (ハルレスハウゼン), 第VII部門 土壤調査, 部門長: TRÉNEL (ベルリン), a) 北部および中部ドイツ研究サークル: TRÉNEL (ベルリン), b) 南部ドイツ研究サークル: HOCK (ミュンヘン), 第VIII部門 熱帯および亜熱帯諸国の土壤学, 部門長: JACOB (ベルリン), 1936年7月1日の会員数: 192。

1935年オックスフォードの国際土壤学会大会で SCHUCHT は次の第4回大会の会長に選ばれ、同時にドイツは次期大会開催国と決まった。この大会後の DBG の研究計画は、予定されていたハイデルベルクの国際学会とそれに引続きドイツを横断して行なわれる予定の見学旅行に合わせた、広範囲の断面調査、概観土壤図の作製および多数の分析の実施から成っていた。ドイツの土壤の生成、性質および分類はこれらの見学旅行の主要計画であり、それには母岩の因子のために広い地域が準備されることになっていた。この計画は、当時とくに重点が置かれていたドイツ沿海地帯における干拓と土地改良の研究、ゲーストとモーア上の低収量の砂土地帯を肥沃

化するための北海の多量の泥の利用, さらに「増産運動」の一環として行なわれた土壌肥沃性維持増大のための膨大な試験によって補われることになっていた。

1936 年ケーニヒスベルクで開催された ISSS の第 4 部門 (土壌肥沃性) の集会では, 当時激しい論争の的となっていたテーマ, 実験室の方法 (d'SIGMOND は 30 の方法に言及) および鉢試験, 圃場試験がどの程度肥料需要量を示すのに適しているかが取り上げられた。そしてそれと同時にドイツにとりますます重要となりつつあった多数の要因, 石灰, ホウ素, マンガン, 銅の施用が腐植成分との関連において指摘された。

先に簡単に概要を述べた DBG の構想は勃発した戦争のためついに実現されなかった。もしもこの国際会議がドイツで, 国際土壌学会の創立者の一人として選ばれた会長の指揮のもとに行なわれたならば, 世界の土壌学者は大歓迎を受けたことと想像される。1941 年, SCHUCHT の突然の死後, F. GIESECKE が DBG の統率に当たった。1942 年ドレスデンでなご一回, 研究機関と共催で大会が開かれた。

1926 年～42 年の大会の概要と会長名は次のとおりである。第 1 回 (1926) デュッセルドルフ, F. W. SCHUCHT, O. LEMMERMANN, 第 2 回 (1928) ハンブルク, O. LEMMERMANN, 第 3 回 (1932) ウィースバーデン, O. GANSEN, P. EHRENBURG, 第 4 回 (1935) ケーニヒスベルク, F. W. SCHUCHT (第 9 回まで), 第 5 回 (1935) ヴェルツブルク, 第 6 回 (1936) ゲッティンゲン, 第 7 回 (1937) ベルリン, 第 8 回 (1938) ザルツブルン, 第 9 回 (1940) ハイデルベルク, 第 10 回 (1942) ドレスデン, F. GIESECKE。

II. 第二次世界大戦後の時代 1945～1976 年

学会や学術団体は戦後解散した。総合大学および単科大学は多くの場合, 何年か後まで正常な運営を再開できなかった。当時英軍の占領区域内にあったゲッティンゲンは, その大学がすでに 1945 年 10 月 1 日に教育と研究活動を開始してよかった点で, 例外であった。戦争はまたわれわれの列に大きな亀裂をつくった。多数の生きのびて引揚げて来た人々は, 職場へ帰ることができるまでになおかなりの間捕虜の状態にあった。他の者は当時の占領軍の厳しい規定のために, その職場を一時やめねばならなかった。そしてその他にも多くのことが起った。

創立宣言

署名者は, 彼らが 1949 年 12 月 7 日ウィースバーデン, ボーデンシュテット街 4 番地においてドイツ土壌学会を

創立したことを, ここに宣言する。上記の学会は署名した創立者の決議に基づき, 団体の登記をされる。規約の草案は創立会議の決議に基づき, 選出された下記執行部の構成者により作製され, 追って登記を行なった地方裁判所に提出される。

署名: E. BLANCK (ゲッティンゲン), H. KURON (シュパイエル), F. SCHEFFER (ゲッティンゲン), P. KÖTTGEN (ギーゼン), P. SCHACHTSCHABEL (ザルシュテット), F. VOGEL (フライジング), O. LIEHR (フランクフルト), W. SCHNEIS (フランクフルトアムメイン), F. WACKER (チュービンゲン), L. SCHMITT (ダルムシュタット), BÖTTRICH (フランクフルトアムメイン), E. DOERRELL (ピネベルク), E. SCHÖNHALS (ウィースバーデン), E. MÜCKENHAUSEN (デュッセルドルフ), H. WORTMANN (ポフム), A. MÜLLER-STAPEL (ハーゲン)

1949 年ドイツ連邦共和国 (BRD) の建国およびそれと同時に進められた占領軍による承認後はじめて, われわれにとっても土壌学会再建の可能性が出て来た。ひとつの土壌学会に統一するという考えが強く生き残っていたので, 1949 年 12 月 7 日ウィースバーデンでは, 出席した以前の会員たちによって, ひとつの土壌学会の創立が満場一致承認された。そして会長 E. BLANCK (ゲッティンゲン), 副会長 H. KURON (当時シュパイエル, 1963 年没), 事務局長 F. SCHEFFER (ゲッティンゲン) から成る暫定的執行部を, 1950 年の第 1 回大会に会則を提案する任務を委託して, 選出することができた。

1950 年 9 月 7～8 日バイエルン地質調査所百年祭に際し, ミュンヘンで開催された第 1 回大会で執行部の選出は満場一致承認された。提案された会則も同じく採択された。学会は今後ドイツ土壌学会 “Deutsche Bodenkundliche Gesellschaft (DBG)” の名称を用い, 国際土壌学会とは学会会員が個人的に加入することにより今後も関係は残る。学会は本部をゲッティンゲンに置く。ISSS の分科にならない 6 つの (のちに 7 つの) 部門に分ける。1. 土壌物理, 2. 土壌化学, 3. 土壌生物, 4. 土壌肥沃性および植物栄養, 5. 土壌生成, 分類および調査, 6. 土壌工学, 7. 土壌鉱物 (1962 年以降)。特別な課題のためには研究グループを設ける。「土壌学に関心をもつあらゆる人および団体は会員となることができる。」DBG の発表論文は従来どおり, O. LEMMERMANN により創刊され, のちに E. RAUTERBERG, G. MICHAEL, P. SCHACHTSCHABEL, F. SCHEFFER および K. SCHMALFUSS (訳注 1) により編集された, 雑誌 “Zeitschrift für Pflanzenernährung, Düngung und Bodenkunde” (現在は “Z. für Pflanzenernährung und Bodenkunde”

の名称を用いている)に掲載する。さらにミュンヘンでは、ドイツのすべての単科大学に土壤学を正規の学科および研究領域として導入するというDBGの希望を、すべての権威ある官庁に提出することを決議した。

土壤学の思想を振興するために果した功績を認めて、名誉会長に O. LEMMERMANN, 名誉会員に Graf zu LEININGEN (ウエステルブルク), E. A. MITSCHERLICH, P. EHRENBURG を指名した。

土壤学の専門領域の上記の分類, すなわち物理的, 化学的, 生物的または調査的研究方法によるものでは, 方法的処置が優先されている。しかし, むしろ真の専門分野に従って分類すべきだということが次第に明らかになって来た。1962年のウィーンの大会で次の6主要分野への分類が提案され, その後論議が行なわれた (F. SCHEFFER, *Ztsch. PDB*, 98, 18, 1962)。1. 土壤解剖および形態学, 2. 土壤代謝 (土壤動態よりも広範), 3. 土壤生成学, 4. 土壤分類学, 5. 土壤地理学, 6. 土壤工学, 7. 地質学的発展過程における土壤 (土壤歴史学)。

学術的な集会は1950年以降毎年行なわれたが, 1957年以来総会と合わせて隔年に開催されるようになった。大会のない年には, 特別会議を催すためあるいは次の大会やそれに付随する見学旅行の準備をするための部会がもたれている。各部門は土壤学の種々の分科における学術活動の真の担い手である。

次に1950年以降の講演発表会を主要課題(重点課題)とともに示す。その他の点については“*Mitteilungen der Deutschen Bodenkundlichen Gesellschaft*”を参照されたい。会長 F. SCHEFFER (1969 まで); 1952, パート・クロイツナッハ; 1953, ボン, 土壤生成および分類; 1954, フライブルク (スイスへ見学旅行); 1955, ゲットティングエン; 1957, ブレーメン, 北ドイツの土壤社会; 1959, ベルリン (DDR へ見学旅行); 1961, ウィーン (オーストリアで見学旅行); 1963, ヴェルツブルク, 重粘土; 1965, アーヘン, 粘土移動のみられる土壤 (ベルギーへ見学旅行); 1967, マインツ; 1969, ハノーヴァ; 1971, シュツットガルト・ホーエンハイム, 会長 E. MÜCKENHAUSEN (1973 まで) (ISSS II, VI 部門と共催); 1973, ギーゼン; 1975, レーゲンスブルク, 会長 D. SCHROEDER, 環境研究と国土計画における土壤学; 1977, ブレーメン。

会員の動向

会員数は喜ばしいことには再建後年とともに絶えず増加した。講演発表会およびそれとともに行なわれる見学旅行の参加者もまた年ごとに増加した。会員数は1941年以前のドイツでは200名まで漸増したが, 35年後の

現在, 1976年には連邦共和国で585名に増加した(訳注2)。会員のうち206名が1974年に同時にISSSの会員として登録されている。数年前にはDDR(ドイツ民主共和国)の土壤学者もDBGに加入していた。まことに残念なことだが, 彼らは1960年以降数年の間に関わりから離れて行かねばならなかった。そして今われわれの間にはゆるやかな結びつきが残っているに過ぎない。最近数年間にDBGは, 土壤学の分野における優れた学者または傑出したDBGの推進者を名誉会員に指名した。

DBGの名誉会員—1976: C. W. CORRENS (ゲットティングエン), W. LAATSCH (ミュンヘン), E. MÜCKENHAUSEN (ボン), P. SCHACHTSCHABEL (ハノーヴァ), F. SCHEFFER (ゲットティングエン), C. STAPP (ブラウンシュヴァイク), O. TORNAU (ゲットティングエン), F. VOGEL (ミュンヘン), W. WITTICH (ハノーヴァ・ミュンデン)

執行部の構成と会員数の動向は次のとおりである。1950年, 会長 BLANCK, 副会長 KURON, 事務局長 SCHEFFER, 94名; 1951年, 122名; 1955~57年, 会長 SCHEFFER, 副会長 KURON, WITTICH; 1959年, 会長 SCHEFFER, 副会長 KURON, NEHRING; 1962年, 会長 SCHEFFER, 副会長 NEHRING, MÜCKENHAUSEN; 1964年, 417名; 1965年会長 SCHEFFER, 副会長 MÜCKENHAUSEN, MÜLLER, G., 467名; 1967年, 会長 SCHEFFER, 副会長 MÜCKENHAUSEN, SCHACHTSCHABEL, 486名; 1968年, DDRからの会員約78名が退会; 1970年, 会長 MÜCKENHAUSEN, 副会長 SCHLICHTING, SCHROEDER, 456名; 1974年, 会長 SCHROEDER, 副会長 MAAS, SCHWERTMANN, 546名; 1976年1月1日現在585名。

DBGの研究グループ—1976: 1, 2, 4, 5部門:「土壤の濾過性と負荷能」—主部門 2; 2, 4部門:「土壤および堆積物中の微量元素(とくに有毒元素)」—主部門 4; 2, 4, 6部門:「水保全地区における土地利用」—主部門 6。

DBGの研究サークル—1976(部門のなかでの研究単位): 2部門:「土壤および水域におけるリン酸の結合と平衡」, 「土壤中の有機-無機系における物理化学」, 「土壤および水域におけるN-固定とN-代謝」, 3部門:「土壤微生物学」, 4部門:「養分供給能の因子とその測定法」, 5部門:「土壤分類」。

DBGの事務局: 事務局長: B. MEYER, 書記: C. MANKEL。

DBGとISSS: ISSSはすでに1950年戦後最初の大会をアムステルダムに招集した。当時なお続いていた困難, 承認を躊躇する動きが感じられたにもかかわらず,

DBG は 10 人の会員で、まったく平等の権利をもってこれに参加した。アムステルダムでドイツからの参加者は、よき友として熱心に国際協力への希望を述べる多くの同業の専門家たちと出会った。最初の成果はまもなく明らかとなった。1950 年には英語と仏語だけが大会の使用語として許されていたが、1954 年にドイツ語は再び以前の地位を得た。「科学はさまざまな社会をつなぐ最良の可能な結び目である」と 1975 年に逝去された長年の ISSS 事務局長 F. A. van BAREN 教授は述べた。氏の国際的な尽力に対し、前任者 D. J. HISSINK 教授と同様、われわれは感謝と評価をせねばならない。

次の時代にドイツは何回も国際協力に関係することがあった。大会をドイツで招集することは、今までのところ可能ではなかったが、3つの重要な ISSS 部会、すなわち 1958 年ハンブルクの II および IV 部門、1966 年ブラウンシュヴァイク・フェルケンローデの IV 部門および 1971 年シュツットガルト・ホーエンハイムの V および VI 部門 (プソイドグライおよびグライ) が開催された。1962年に F. SCHEFFER はニュージーランド北島パルマーストンの IV 部門の会議を主宰した。W. KUBIENA (1970 年没) により創始され、1958 年と 1971 年ブラウンシュヴァイク・フェルケンローデおよび 1974 年シュツットガルトで会議を開催した「土壌微細形態」の研究グループも挙げておきたい。

終りに、国際的な研究協力への関心の大きいことは ISSS のドイツの会員数の多いことで証明されるであろう。1974 年に DBG に属する ISSS 会員は 206 名であった (訳注 4)。国際的な研究協力を推進するために、DBG は一連の著名な、土壌学に功労のある学者を「通信会員」に指名した (訳注 5)。

DBG の通信会員—1976 : G. BARBIER (ベルサイユ), B. DOBRZANSKI (ワルシャワ), Ph. DUCHAUFOR (ナンシー), J. di GLERIA (ブダペスト), M. GRACANIN (ザグレブ), E. KIVINEN (ヘルシンキ), A. MEHLICH (ローリ), M. ØDELIEN (ヴォレベック), R. TAVERNIER (ゲント), G. TORSTENSSON (ウプサラ), L. WIKLANDER (ウプサラ)。

他方、ISSS はドイツの会員を次のとおり名誉会員に指名した。E. RAMANN (1924 年ローマ大会), E. A. MITSCHERLICH (1935 年オックスフォード大会), W. L. KUBIENA (1968 年アデレード大会), F. SCHEFFER (1974 年モスクワ大会)

雑誌、会報および図書の発行について

自己出版による一冊の雑誌への希望は、すでに創立大会で出されたが、これは今日まで財政的理由から実現さ

れなかった (訳注 6)。それでも 1975 年には、ワインハイムの化学出版社 (Verlag Chemie) から出ている “*Zeitschrift für Pflanzenernährung und Bodenkunde*” (“*Journal of Plant Nutrition and Soil Science*”) の発行者として DBG とドイツ植物栄養学会 (Deutsche Gesellschaft für Pflanzenernährung) (訳注 7) がその内容に共同責任を負うことを明らかにし、編集委員会を設けるところまで到達した。DBG の会員は割引価格でこの雑誌を入手できる。

大会ですべての講演に参加できなかったまたはさしつかえがあって講演発表会に出られなかったすべての人々への情報伝達が遅れないように、通例の回状のほかに、大会や部会の概要の報告を発行する必要性はすでに以前から明らかになっていた。この目的のために作られた “*Mitteilungen der DBG*” (今までに 1~22 巻を発行、編集者は今のところ P. HUGENROTH, ゲッティンゲン) は全会員に配布されている。会員外の利用も料金引換により入手できる。この報告集は、開催された大会、部会および見学旅行について、数カ月以内に報告を行なうもので、BRD の国境を越えて連帯を促進するますます不可欠の機関誌となっている。Mitteilungen der DBG は投稿された研究結果を予報として掲載するものであるから、それを後に専門の雑誌に発表することを妨げるものではない (訳注 8)。

最近「DBG からのニュース」が新たに掲載されるようになった。これは *Mitt. der DBG* のなかに緑色のページの付録となっており、大学の土壌講座、公立試験研究機関などにおける研究の概要ならびに学会内の要件などについて情報を提供している。

第二次世界大戦後われわれの専門分野では非常に多数の新刊および先に掲げた著作の再版が発行されたので、次に述べる概要にはいくつかの脱落があるかもしれない。内外の雑誌に掲載された DBG 会員の多数の研究成果も同様にこの報告の中で触れなければならないところであるが、それらはドイツばかりでなく世界中に発表されており、ドイツ語以外の言語によるものも少なくないので、それらを集めて整理するためには別な構想が必要であろう。

1949~1976 年の重要文献

- ANDREAE, B., 1965 Bodenfruchtbarkeit in den Tropen, Parey-Berlin, Hamburg
 BLANCK, E., 1949 Einführung in die Genetische Bodenkunde, Vandenhoeck-Ruprecht-Göttingen
 BADEN, W., KUNTZE, H., NIEMANN, J., SCHWERTFEGGER, G., VOLLMER, F. J., 1969 Bodenkunde, Ulmer-Stuttgart
 BRÜMMER, G. u. SCHROEDER, D. (Herausgeber) 1975 Umweltprobleme—Naturwissenschaftliche Grundlagen—

- Parey-Hamburg, Berlin
- ELLENBERG, H., 1963 *Vegetation in Mitteleuropa*, Enke-Stuttgart
- ELLENBERG, H., 1973 *Ökosystemforschung*, Springer-Berlin, Heidelberg, New York
- FIEDLER, H. J., 1966 *Die Untersuchung der Böden*, 2 Bände, Steinkopff-Dresden, Leipzig
- FIEDLER, H. J. u. HUNGER, W., 1970 *Geologische Grundlagen der Bodenkunde und Standortslehre*, Steinkopff-Dresden, Leipzig
- FIEDLER, H. J. u. REISSIG, H., 1964 *Lehrbuch der Bodenkunde*, Fischer-Jena
- FINCK, A., 1963 *Tropische Böden*, Parey-Berlin, Hamburg
- FINK, J., 1958 *Die Böden Oesterreichs (Bodentypenkarte)*
- FRANZ, H., 1960 *Feldbodenkunde*, G. Fromme-Wien, München
- GANSSEN, R., 1963 *Südwestafrika, Böden und Bodenkultur*, Reimer-Berlin
- GANSSEN, R. u. HÄDRICH, F., 1965 *Atlas zur Bodenkunde*, Bibl. Graph. Institut-Mannheim
- GANSSEN, R. u. GRACANIN, Z., 1972 *Bodengeographie*, 2. Aufl., Koehler-Stuttgart
- HARTGE, H., 1971 *Die physikalische Untersuchung von Böden*, Enke-Stuttgart
- HOLLSTEIN, W., 1960 *Die Bodenkarte der Bundesrepublik*, 7. Intern. Kongreß-Madison
- JACOB, A., 1956 *Der Boden*, Verlagsges.-Berlin
- JASMUND, K., 1955 *Die silikatischen Tonminerale*, Chemie-Weinheim
- KLAPP, E., 1967 *Lehrbuch des Acker- und Pflanzenbaus*, Parey-Berlin, Hamburg
- KLOKE, A., 1963 *Die Humusstoffe als Wachstumsfaktoren*, Parey-Berlin, Hamburg
- KREBB, K., 1964 *Ökologische Grundlagen der Bewässerungskulturen in den Subtropen*, Fischer-Stuttgart
- KUBIENA, W., 1938 *Micropedology*, Ames-USA
- KUBIENA, W., 1948 *Entwicklungslehre des Bodens*, Enke-Stuttgart
- KUBIENA, W., 1953 *Bestimmungsbuch und Systematik der Böden Europas*, Enke-Stuttgart
- KUBIENA, W., 1954 *Die Bodenkarte Spaniens*
- KUNTZE, H., 1965 *Die Marschen—Schwere Böden in der landw. Evolution*, Parey-Berlin, Hamburg
- LAATSCH, W., 1957 *Dynamik der mitteleuropäischen Mineralböden*, 4. Aufl., Steinkopff-Dresden, Leipzig
- LAATSCH, W. u. GROTTENTHALER, W., 1973 *Labilität und Sauerung der Hänge in der Alpenregion*
- MITSCHERLICH, E. A., 1954 *Bodenkunde*, 7. Aufl., Parey-Berlin, Hamburg
- MÜCKENHAUSEN, E. (unter Mitwirkung von HEINRICH, H., LAATSCH, W. u. VOGEL, F.) 1962 *Entstehung, Eigenschaften und Systematik der Böden der Bundesrepublik*, DLG-Frankfurt/M.
- MÜCKENHAUSEN, E., 1975 *Bodenkunde*, DLG-Verlag, Frankfurt/M.
- MÜCKENHAUSEN, E. u. WORTMANN, H., 1953 *Bodenübersichtskarte Nordrhein-Westfalen, Krefeld-Hannover*
- MÜLLER, G., 1965 *Bodenbiologie*, G. Fischer-Jena
- MÜLLER, S., 1969 *Böden unserer Heimat*, Frank'scher Verlag-Stuttgart
- MÜLLER, W., 1968 *Die Bodenkarten Niedersachsens 1 : 25000, 1 : 50000*
- NIESCHLAG, F., 1963 *Der fruchtbare Boden*, DLG-Frankfurt/M.
- RIPPEL-BALDES, A., 1954 *Grundriß der Mikrobiologie*, Springer-Berlin, Göttingen
- ROEMER, Th. u. SCHEFFER, F., 1959 *Ackerbaulehre*, 5. Aufl., Parey-Berlin, Hamburg
- ROTHKEGEL, W., 1950 *Geschichtliche Entwicklung der Bodenbonitierung*, Ulmer-Stuttgart
- ROTHKEGEL, W. u. KUTSCHER, G., 1966 *Landwirtschaftliche Schätzungslehre*, Ulmer-Stuttgart
- SCHARRER, K., 1955 *Biochemie der Spurenelemente*, Parey-Berlin, Hamburg
- SCHEFFER, F. u. SCHACHTSCHABEL, P., 1976 *Lehrbuch der Bodenkunde*, 9. Aufl., Enke-Stuttgart (unter Mitwirkung von BLUME, H. P., HARTGE, K. H. u. SCHWERTMANN, U.)
- SCHEFFER, F. u. WELTE, E., 1958 *Pflanzenernährung*, 3. Aufl., Enke-Stuttgart
- SCHEFFER, F. u. ULRICH, B., 1960 *Humus und Humusdüngung*, 2. Aufl., Enke-Stuttgart
- SCHLICHTING, E., 1964 *Einführung in die Bodenkunde*, Parey-Berlin, Hamburg
- SCHLICHTING, E., 1960 *Typische Böden Schleswig-Holsteins*, Parey-Berlin, Hamburg
- SCHLICHTING, E. u. BLUME, H. P., 1966 *Bodenkundliches Praktikum*, Parey-Berlin, Hamburg
- SCHMALFUß, K., 1969 *Pflanzenernährung und Bodenkunde*, Hirsch-Leipzig
- SCHMIDT-LORENZ, R., 1971 *Die Böden der Tropen und Subtropen in den Entwicklungsländern*
- SCHÖNHALS, E., 1951 *Bodenkundliche Übersichtskarte in Hessen*, Hess. Landesamt für Bodenforschung-Wiesbaden
- SCHROEDER, D., 1962 *Die Bodenkunde als reine und angewandte Naturwissenschaft*, Hirt-Kiel
- SCHROEDER, D., 1972 *Bodenkunde in Stichworten*, 2. Aufl., Hirt-Kiel
- SEKERA, F., 1951 *Gesunder und kranker Boden*, Parey-Berlin, Hamburg
- STREMMER, H., 1950 *Die Böden der DDR*
- SÜCHTING, H., 1949 *Lehrbuch der Bodenkunde und Pflanzenernährung*, Landbau-Verl.-Hannover
- WOLDSTEDT, P., 1958 *Das Eiszeitalter*, 2. Bd., Enke-Stuttgart
- VOGEL, F. u. BRUNNACKER, K., 1953 *Bodenkundliche Übersichtskarte von Bayern*, Bayer. Landesamt-München
- Verhandl. der Intern. Bodenkundl. Ges., 1958, Kommissionen II und IV in Hamburg, Enke-Stuttgart
- Verhandl. der Intern. Bodenkundl. Ges., 1971 Kommissionen V und VI in Stuttgart-Hohenheim, SCHLICHTING, E. u. SCHWERTMANN, U. (Herausgeber) *Pseudogley-Gley*,

Enke-Stuttgart

結 語

この報告は DBG が存続した 50 年の月日のなかから一連の事実、事件および組織問題ならびに個人的体験を述べたものである。それは土壤学の分野における学術活動と著述上の活動について述べており、わが学会の外国の科学者との緊密な国際交流についても注意を促している。同時にそれは、第一次世界大戦後の困難な 10 年間および第二次世界大戦を越えて、若い組織とわれわれの科学に対して信義を守って来た会員たちの、飽くことを知らぬ、そして己を空しうした努力を、感謝とともに強調しておきたい。

この時代を最初から一緒に経験して来た者、そして今日ほとんど 600 名になんなんとする立派な会員数を、とくにその中で若い科学者たちが年とともに増大する興味をもって土壤学に従事していることを確認できる者は、土壤学が科学として一連の科学の中で重要な地位を占め、そして次の何十年間にもこの地位を譲りはしないことを確信している。あらゆる科学は、その会員によって支えられ、その協力を基盤とすることができる限り、生命を失うことはない。

訳 注

- 1) K. SCHMALFUSS は DDR (ドイツ民主共和国) ハレ大学

の教授 (1976 年没) で編集に参加していたが、1960 年代に退会。

- 2) 1978 年 2 月現在の会員数は 644 名。(日本土壤肥料学会の会員数は 1978 年 7 月現在個人 2010, 団体 265。)
- 3) 1978 年の執行部は次のとおり。会長 D. SCHROEDER, 副会長 U. SCHWERTMANN, G. ROESCHMANN
- 4) 1978 年 2 月現在の ISSS 会員数は 225 名 (日本土壤肥料学会では 180 名)。
- 5) 1978 年 2 月現在さらに次の 3 名が通信会員に指名されている。R. DUDAL (ローマ), J. LÅG (オス, ノルウェー), D. YAALON (イスラエル)。なお DBG 会則第 9 条に次のとおり定められている。「国際的研究協力を推進するために、功労ある外国の専門家を通信会員 (Korrespondierendes Mitglied) に指名することができる。指名は執行部の決議に基づき会長が行なう。通信会員は被選挙権を除き正会員の権利を有する。
- 6) DBG の会費は年額正会員 16 マルク, 学生会員 5 マルク (1 マルク ≒ 100 円) で、少なくともここ 5 年間一度も値上していない。
- 7) ドイツ植物栄養学会の会員数は 1978 年現在 62 名, 会長 A. FINCK (キール), 副会長 A. JUNGK (ハノーファー), 本部をギーゼン大学に置いている。
- 8) A 5 版, タイプ印刷, 1 課題数ページ, 図, 表, 文献を含み, 研究結果の概要を知ることができる。

謝 辞 日本語への翻訳を快諾された原著者 F. SCHEFFER 教授ならびに翻訳に当り御援助を惜しまれなかったゲッティンゲン大学 P. HUGENROTH 博士, C. MANKEL 夫人に謝意を表します。